

トビウオ通信 (R3 第1号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-23-4806)

《令和2年漁期前半(8月～12月)の底びき網漁業の動向》

小型底びき網1種漁業(かけまわし)

1隻当り漁獲量・金額ともに平年並み

島根県の小型底びき網1種漁業(かけまわし)39隻の令和2年漁期前半(令和2年9月1日～12月31日)の総漁獲量は1,795トン、総水揚げ金額は8億7,597万円でした。1隻当り漁獲量は46トン、水揚げ金額は2,261万円とともに平年並みでした(平年値:49トン、2,115万円)。

ソウハチは平年並み、ムシガレイは平年を下回る

主要魚種であるソウハチは1隻当り漁獲量が7.4トンで前年の1.0倍、平年の1.1倍の水揚げでした。ムシガレイは1隻当り漁獲量が1.6トンで、前年の8割、平年の9割の水揚げでした。また、メイタガレイは1隻当り漁獲量が0.4トンで、前年の8割、平年の6割の水揚げでした。

ケンサキカは2年続けて低調、ヤリイカは好調

ケンサキカは1隻当り漁獲量が0.2トンで、記録的な不漁であった前年を上回りましたが(前年の1.7倍)、平年の8%の水揚げに留まり、前年に引き続き低調な水揚げでした。一方、ヤリイカは1隻当り漁獲量が4.1トンで、前年の3.0倍、平年の1.8倍となり、平成5年以降では平成27年漁期(7.8トン/隻)に次いで多い水揚げでした。

アカムツ・アンコウ類は好調、キダイ・ニギスは低調

アカムツは1隻当り漁獲量が2.6トンで、前年の8割、平年の1.2倍と好調でした。アンコウ類は1隻当り漁獲量が7.9トンで、前年の1.1倍、平年の1.9倍と好調で、平成5年以降では最高の水揚げを記録しました。

また、キダイは1隻当り漁獲量が2.5トンで、前年の1.0倍、平年の6割、ニギスは1隻当り漁獲量が2.9トンで、前年の1.1倍、平年の6割と低調でした。

アナゴ類は好調、マダラは平年を下回る

その他、アナゴ類は1隻当り漁獲量が4.2トンで、好調であった前年を下回りましたが(前年の7割)、平年の1.4倍と好調でした。また、マダラは1隻当り漁獲量が1.8トンで、前年の1.1倍、平年の5割の水揚げでした。

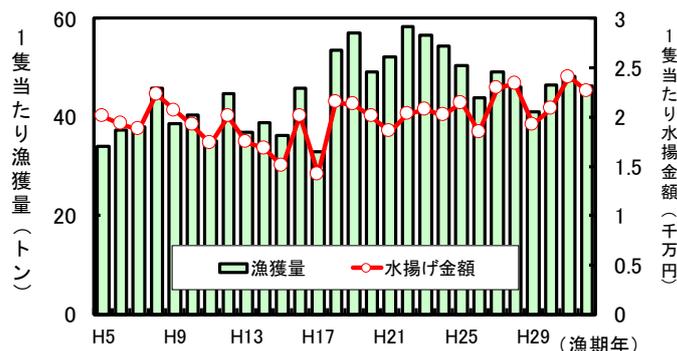


図1 小型底びき網1種漁業における1隻当り漁獲量と水揚げ金額の動向(9～12月)

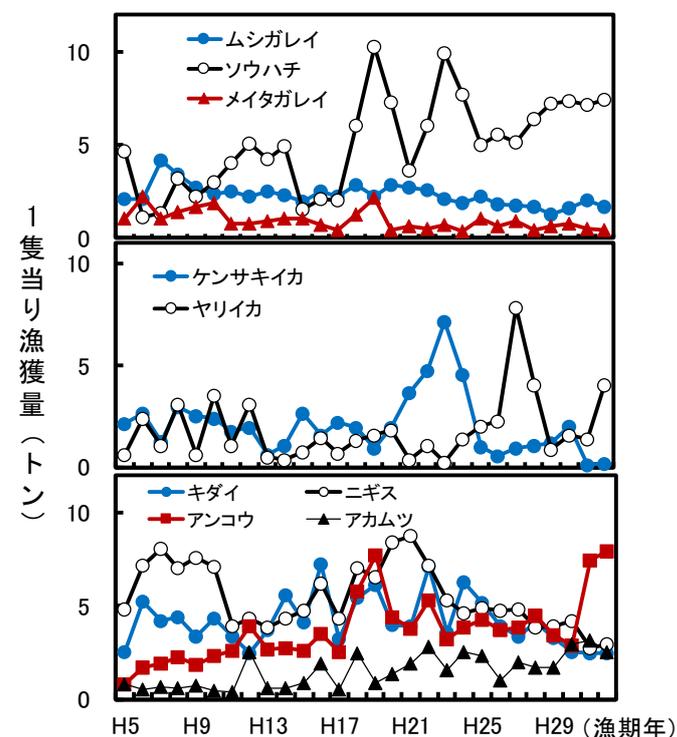


図2 小型底びき網1種漁業における主要魚種の漁獲動向(9～12月)

<文中の語句説明>

- ☞ 平年は、過去10年[平成22年漁期～令和元年漁期の漁期前半(8月～12月)]の平均です。
- ☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。

沖合底びき網漁業 (2 そうびき)

1 統当り水揚量は平年並み、金額は平年を上回る

浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業(4 統)の令和2年漁期前半(令和2年8月16日～12月31日)の総漁獲量は1,312トン、総水揚金額は7億2,856万円でした。1統当りでは、漁獲量は328トンで平年並み、水揚金額は1億8,214万円で平年を上回りました(平年値:315トン、1億5,814万円)。

ムシガレイは平年を下回り、ソウハチは平年を上回る

主要魚種であるムシガレイは1統当り漁獲量が27トンで、前年の8割、平年の7割の水揚げでした。ソウハチは1統当り漁獲量が28トンで、前年の1.5倍、平年の1.2倍の水揚げでした。また、ヤナギムシガレイは1統当り漁獲量が7.9トンで、前年の9割、平年の1.1倍の水揚げでした。

ケンサキイカは2年続けて低調、ヤリイカは好調

ケンサキイカは1統当り漁獲量が4.2トンで、記録的な不漁であった前年を上回りましたが(前年の1.5倍)、平年を下回り(平年の2割)、前年に引き続き低調な水揚げでした。

一方、ヤリイカは1統当り漁獲量が27トンで、前年の7.3倍、平年の5.5倍の水揚げでした。10月～12月にかけてまとまった水揚げが続き、久しぶりに好調な水揚げでした。

キダイは低調、アカムツは好調を維持

キダイは1統当り漁獲量が26トンで、前年の6割、平年の7割の水揚げでした。アカムツは1統当り漁獲量が35トンで、前年の1.0倍、平年の1.6倍と好調でした。今期も前年同様に小型サイズ(メッキン銘柄)が多く、漁獲量の約7割を占めました。キダイの水揚げは前年から落ち込みましたが、アカムツは近年好調に推移しています。

また、ニギスは1統当り漁獲量が3.5トンで平年の6割、アンコウ類は1統当り漁獲量が18トンで平年の9割、アナゴ類は1統当り漁獲量が37トンで平年の1.5倍の水揚げでした。その他、今漁期は11月をピークにマダラが多く漁獲され、1統当り漁獲量は23トンで、前年の4.7倍、平年の3.7倍の水揚げでした。

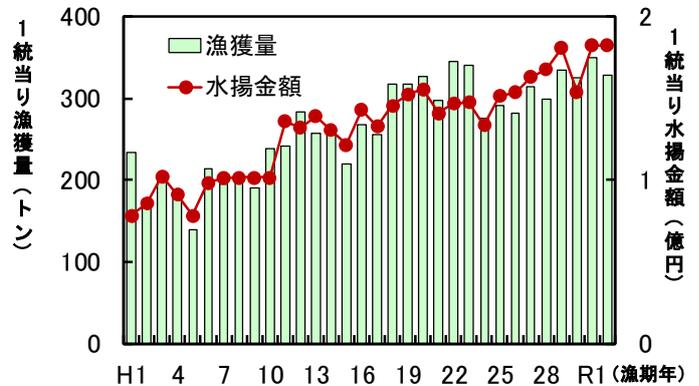


図3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当り漁獲量と水揚金額の動向(8～12月)

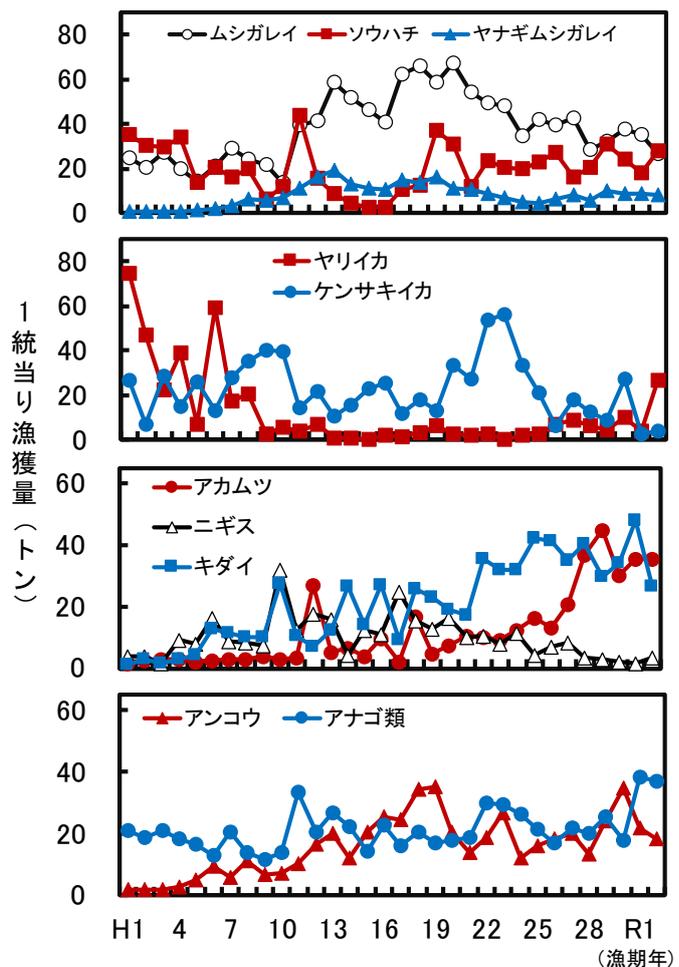


図4 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(8～12月)